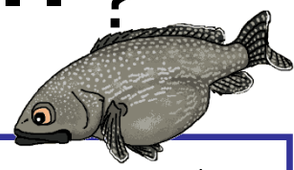
川平より さかなのおはなし

第23回：産卵群は突然，姿を消す･･･？

2016年8月1日　発行



八重山では，産卵のときに大きな群れを作る魚種が多く知られており，「時期のもの」として大量に水揚げされたり，一般の釣り人にも親しまれてきました．しかし，獲りすぎで姿を消してしまった種類もあるようです．

1. 産卵のときに群れを作る魚

八重山では特定の時期になると，ご存じ**さっこーみーばい**や，**いしみーばい**，**はやー**，**ゆだやー**など，特定の魚種が一度にたくさん水揚げされることがあります．これらは，産卵に関係した一時的な群れである「産卵集群」を形成するとされており，産卵集群を狙った漁獲によってたくさん水揚げされるようです．産卵集群が形成されるタイミングや場所は，魚種によって異なりますが，月の周期や水温などが関係しているようです．

図１．産卵集群を形成するとされる魚種の例

さっこーみーばい（ナミハタ）

いしみーばい（カンモンハタ）

はやー（ヒレグロハタ等）

ゆだやー（マダラハタ）

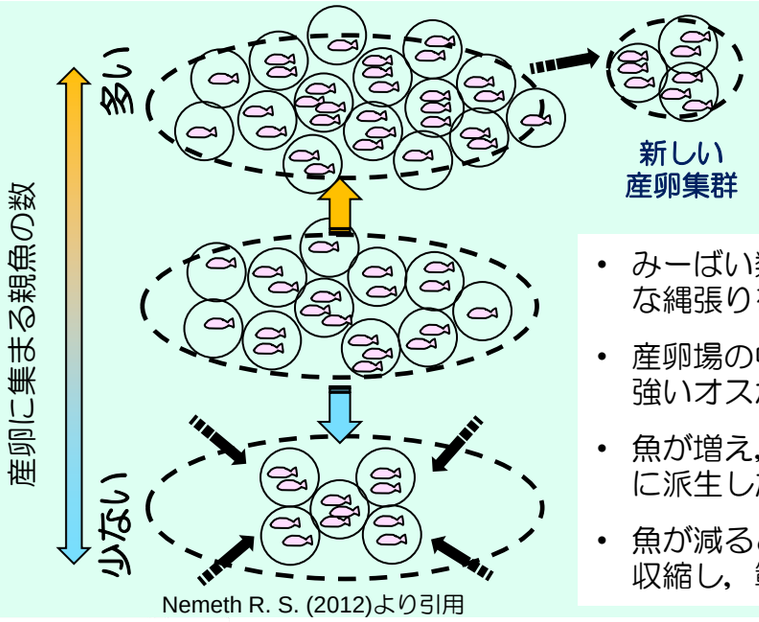
2. すでに姿を消してしまった魚も･･･

特定の時期，場所に集まるという性質が故，このような魚種は狙われることが多く，産卵直前のお腹がパンパンに膨らんだ魚がたくさん獲られてきました．次の世代を残すための産卵ができずに，非常に多くの魚が獲られてしまうので，資源に大きなダメージを与えることになります．八重山では，かつて**やーらあかじん**（オオアオノメアラ）が，一日に軽トラ一杯獲れたと言いますが，今は見かけることすら希な魚です．

やーらあかじん（オオアオノメアラ）

かつてケングチやインダビシなどに産卵場があった．比較的浅い場所に集まるため，漁獲しやすかったという．

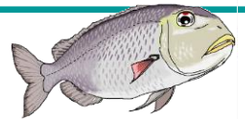
3. たくさんいたのに，パタッといなくなるのは？



Nemeth R. S. (2012)より引用

- みーばい類では，産卵時にオスが一時的な縄張りをつくり，メスを囲う．
- 産卵場の中心は，特に魚の密度が高く，強いオスが占有する．
- 魚が増え，産卵場が混んでくると，近くに派生した産卵場が形成される（上段）．
- 魚が減ると，集群範囲は産卵場の中心に収縮し，範囲が狭くなる（下段）．

山ほど獲れていた産卵群が減ってくれば，「これはマズい！」と取り尽くす前に気づきそうですが，ギリギリになるまで気づかないこともあるようです．左の図は，産卵に集まる魚の数と，集群規模の模式図ですが，魚が少なくなると産卵場の中心での密度は高いまま，魚が集まる範囲は小さくなっていきます．つまり，密度が高い範囲は狭くなるものの，維持されるため，**産卵群が形成されなくなるまで「大漁」し続ける**わけです．また，その前段階として産卵場の数が減る，というのも黄色信号と言えるでしょう．かつて産卵時期には「地面が見えないほど」たくさん集まったという，**さっこーみーばい**もずいぶん少なくなり，いくつかの産卵場では魚が集まらなくなってしまったと言います．現在実施しているヨナラ水道の保護区が上手くいけば，産卵場の数もまた増えてくるのかもしれませんね．



沖縄県水産海洋技術センター石垣支所　石垣市字川平828－2　電話：0980-88-2255（担当：秋田）

←バックナンバーが見られます！　http://www.pref.okinawa.jp/fish/sakana-hanashi/index.html